

春日部福音自由教会 2020年5月3日 11:00 同時配信礼拝(ライブ配信礼拝)

聖書 ヨハネの福音書 21章 19節～25節

説教 『イエス様との散歩』 小野信一牧師

おはようございます。聞こえていますでしょうか？2020年5月3日の主の日の礼拝を共に捧げます。本来であれば月の第1日曜日ですので聖餐式をする日ではありますが、今日はそのことを覚えながらも、聖餐式をすることができません。

昨日は結婚式が行われました。招待客の方たち、また教会の兄妹姉妹の皆さんが集まってすることはできませんでした。お祝いまた披露、それはできませんでした。しかし結婚式を行い2人が誓約を為すことができました。神様に感謝し、また皆さんのお祈りに、また心遣いに感謝したいと思います。

今日の御言葉はヨハネの福音書 21章 19節からのところです。今日の説教題は「イエス様との散歩」とすることにしました。「イエス様と一緒に歩く」という説教題を考えていたのですが、少し変えました。先ほど91件の視聴がなされているということを見せてくれました。今日も精一杯に祈りつつこの配信を届けております。皆さんに届きますように祈りつつ送っております。

I 共に祈る時を持ちましょう

さて今日この礼拝の場で、ともに祈りの時を持ちましょう。今それぞれこの礼拝の場、と言ってもいる場所は違うでしょう、しかし今一人一人心を静めて、黙祷のうちに、短い時間、祈る時を持ちたいと思います。過ぎた一週間を振り返って感謝なことがあればそれを神様に話しましょう。そして何か自分の想いの中で神様に話したいことがあればそれを話しましょう。そして今、私たちは神様の前に出ている。神様の前に重荷を降ろしましょう。短い時間ですけど黙祷を捧げます。……[黙祷]……それでは黙祷をそこまでにいたしましょう。

II イエス様と二人で過ごす

今日の御言葉です。ヨハネ 21章 19節から 25節まで、まず今日はイエス様と一緒に歩こうということをお話ししたいと思います。

ゴールデンウィークです。今日も良い天気です。イエス様と一緒に歩きましょう。今年のゴールデンウィークは旅ができません。レジャーに出かけられない、みんなと集まれない、そういう中にあります。でも散歩はできます。ですから一人で出かけて、そしてイエス様と二人で過ごしましょう。一人で出かけて歩きながらイエス様とお話

する、ということが出来ます。気をつけながら、出かけてほしいと思うのです。遠くには出かけられないゴールデンウィーク。イエス様と二人で散歩するゴールデンウィークにしましょう。

II-1 ペテロの湖畔の散歩

あるとき聖書を読んでいて突然気がついた時がありました。今日のこの御言葉です。イエス様が復活した後のこのヨハネ福音書 21 章の記事を読んでいた時ですね。そしてここにはペテロとイエス様の会話が出てきます。その前の所では朝ごはんを一緒に食べたってことが出てきます。そしてペテロとの会話があって、今日のこの 21 節からのペテロとイエス様の対話になるのです。どんなところで話していたのだろうか、その場面を想像してみました。炭火を囲んで食事をして、他の弟子たちはそこにいたのかな？いなかったのかな？座りながらペテロは話していたのか他の人はそれを聞いていたのかどうなのだろう？色々想像しながら読んだ時に、20 節を見てはっと気がついた時がありました。「ペテロは振り向いてイエスが愛された弟子がついてくるのを見た」と書いてありました。“あ、座って話しているのじゃないんだな、ここでは”と気がついたのです。ペテロは“振り向いた”そして“もう一人の人がついてくるのを見た”ということはペテロは歩いてたってことですね。座っていたら座っている人についていくことはできませんから、ペテロは歩いていました。そしてペテロはイエス様と話をしていますから“イエス様も歩いていた”“一緒に歩いていたのだな”ということに気がつきました。きっと並んで歩いていたのでしょう。そして二人が歩くその後ろから、もう一人の弟子ヨハネが歩いてきていました。“ああ、そういうことだったんだ！イエス様と歩いていたのだ、ペテロは”と気がつきました。多分湖のほとりです。湖畔の散歩です。ガリラヤの湖、そのどこか分かりませんがきっと水があり、朝の光があり、春の緑があったのだろうな、想像します。水辺の散歩です。

II-2 イエス様との散歩

皆さんが湖畔の散歩、水辺の散歩をする、としたらどこでするでしょうか。

湖といえば私が思い出したのは、おばあちゃんの家があった諏訪湖とか、白樺湖とか、湯ノ湖とか中禅寺湖とかですね。皆さんも思い出す水辺の風景湖の風景があるのじゃないかと思います。

今年は遠くには行かれませんが、でも近くを朝とか夕方とか人があまりいない時に近くを歩くことは出来ます。今田んぼに水が入ってきて意外に水辺の散歩になるということに気が付きました。

イエス様は復活したあと、今日これで3度目、ペテロたちに現れて姿を現してペテロと一緒に湖のほとりを歩いてくださいました。私たちもペテロがイエス様と二人で歩いたように、私たちも1人出かけて行ってイエス様と二人で散歩することができます。歩きながらイエス様とお話することができるのです。大勢で集まってバーベキューとか公園でピクニックも今年はできません。高速道路をドライブしておじいちゃんおばあちゃんに会いに行く、したいと思うことができないゴールデンウィークです。

でも花は咲いて空気は気持ち良い。それはいつもと変わらないようです。1人で出かけてイエス様と二人で歩く、そのことはできます。2020年のゴールデンウィークがあなたとイエス様が二人で散歩した、二人で歩いて会話をした、ゴールデンウィークとなりますようにと願っています。

Ⅲ 失意の夜明けに

ペテロにとってこのイエス様との会話はいろんなことがあった、その後の会話でした。ペテロはこの前「イエス様なんか知らない」と言ってしまい、それからもうイエス様に会えずにイエス様が十字架にかけられて死んでしまった。しかし「復活したんだ」「よみがえられたんだ」という知らせを聞いた、その後のことです。

ガリラヤで湖の近くでお会いした時の事がここに書いてあります。もともと漁師だったペテロは「もう一度漁に出かける」と仲間だった人達に言います。「俺達も一緒に行く」「俺も行こう」と言ってですね、彼らは船に乗って出かけます。でも今日購読文で読んだところですが、その夜は何も捕れなかった。夜通し働いて0でした。夜中漁をして魚を捕ろうと試みましたが、けれども一匹も取れなかった。やってみただけダメだった、こんなに頑張ったけど収穫ゼロだった。夜通し働いて0だったのです。

皆さんもそういう経験をするところがあるかもしれません。いろんな場でテストが0点だったとかですね。仕事の場で、今日はYouTubeで配信を頑張っています。頑張って送っているのに「視聴者ゼロだった」ってなったら悲しいです。お医者さんや看護師さんであれば「誰も患者さんを助けられなかった」っていうことがあったら本当に虚しく思うでしょう。それぞれの仕事の中で「一生懸命頑張ったのだけど今日はダメだった」って時があるかもしれません。ペテロたちもその夜はそうだったのです。夜明けまで漁をしたけれど何も捕れなかった、0だった。その夜が明けた朝のことでした。イエス様は「俺たち頑張ったけどダメだった」「うまくいかなかった」「やろうとしたことできなかった」と思って多分がっかりしているペテロ達の所にやってきます。「あなたたちのことは分かっている」、そういう思いで近づいてきてくださるのです。「食べる魚がないんですね」と話しかけます。「右側に網を下ろしなさい」。

漁師たちはそう言っておられる方が誰なのかまだ分からないのですが、その通りにします。そして大漁に驚くことになるのです。陸に上がるともうそこには炭火がありました。そして魚が焼かれていました。もうあったのです。なぜか魚はあったのです。「食べる魚がないのですね」って言ったのに、もうイエス様は魚を焼いていました。「なんだ あったんだ」と思ったかもしれません。でもイエス様は言われます。あなたがたが今獲った魚も持ってきなさい。ペテロたちの収穫も朝の食卓に加えてくださいました。そんな頑張ったけど0だった、でもその中で「もう一度イエス様がここに今来てくださっている」と気づいたその経験の後の会話でした。

IV 死に至るまで、そして、その先まで

それで15節から（今日は19節から読んでいただきましたけど）15節から18節のところ大切な会話があるのですが、この会話についてはまた今度にしたいと思います。今日は19節からのこの御言葉です。「あなたはわたしに従いなさい」とイエス様は言われたのです。22節で「あなたはわたしに従いなさい」とあります。19節でもすでにイエス様は「わたしに従いなさい」と言っておられます。「わたしについてきなさい」つまり「一緒に歩きなさい」とイエス様が呼んでおられます。

19節にはペテロがどのような死に方で神の栄光を現すかを示した、ということも書いてあります。そう言われてから、ペテロに「わたしに従いなさい」「わたしについてきなさい」「わたしと一緒に歩きなさい」と言われたのです。「わたしとともに歩け」「我に従え」「共に歩け」。これからペテロがどんな人生を生きるのか、どんな歩みをするか、そしてペテロがどのように死んでいくのか、イエス様はそれも見ておられ、その上で「わたしに従ってきなさい」「わたしと一緒にいなさい」「わたしと一緒に歩きなさい」と言ってくださいます。私たちもそうです。それぞれのこの人生、皆さんのこの人生“どんな道を通ってどんな歩みをしていくのか”そして“どんな死を迎えることになるのか”イエス様が見ていてくださいます。イエス様が私たちの人生全体を見てくださり「わたしに従いなさい」「共に歩きなさい」と呼んでくださいます。ペテロの死に方を示して「そこまでわたしに従いなさい」、死が待っているということを示した上で「あなたはそこまでわたしに従いなさい」と言われます。そしてその先です。

私たちも死に至るまでイエス様と一緒に歩きます。そしてこの肉体が、肉体の命が終わった時、この心臓が動かなくなり、この肺が息をしなくなった時その時も、それでもイエス様と一緒に歩みます。私たちは死に至るまで、イエス様と共に歩み、その先まで死を乗り越えて、その先に至るまで、イエス様と一緒に歩みます。「わたしに

ついてきなさい」「わたしと一緒に歩きなさい」と招いて呼んでくださるイエス様の声を、私たちは今日も聞きます。「わたしと一緒に歩きなさい」。その声を聞いて、イエス様と一緒に歩きます。どんな死になるか、どんな人生になるか、恐れなくて良いのです。

V 「あなたは わたしに従いなさい」

イエス様が「わたしについてきなさい」「一緒に歩きなさい」と呼んでくださる時、私たちは時々、しばしば他の人のことを考えてしまいます。ペテロもそうでした。後ろをついてくる人を見て「主よこの人はどうなのですか」というのです。私たちも時々「イエス様この人はどうなのですか」「あの人はいいのですか」「私だけなのですか」「この人あの人はどうなのですか」と言いたくなります。でもイエス様は言われます。「これはあなたとわたしのことだ」「今あなたのことを言っているのだ」「あなたはわたしに」とイエス様は言われます。19節でも22節でも「わたしに従いなさい」とイエス様は言われていますが、22節では特に強調して「あなたはわたしに従え」と言っておられる。「あなたのこと言っているのですよ」「あなたとわたしのことですよ」「あなたはわたしについてきなさい」「今は他の人のことはいいのだ」とイエス様は思っているのです。

もちろん他の一人一人のことをイエス様は想っておられ大切に思ってくださいます。「でもわたしはあなた一人と向き合いたいのだ」「あなたと会話したいのだ」「あなたと一緒に歩きたいのだ」「わたしの呼ぶ声に答えて欲しいのだ」。イエス様は一人に語ってくださいます。イエス様は言われます。「あなたはわたしに従いなさい」「あなたはわたしと一緒に歩いて欲しいのだ」「あなたはわたしについてくるか」「あなたはわたしを愛するか」「あなたとわたしのことを言っている」、それがイエス様のお心です。私たちはついつい「この人は あの人の使命は何ですか」「この人は何をすることになるのですか」と他の人のことをイエス様に尋ねたくなります。でもイエス様は「あなたはわたしについてくるか」「あなたはわたしについてきているか」と尋ねます。招きます。呼びます。イエス様が呼んでくださるから、私たち一人一人はついていくのです。

これ面白いな、と思ったことは、イエス様が「わたしに従いなさい、ついてきなさい」と言った時、もうペテロはイエス様と一緒に歩いていたのです。もう歩いている、一緒に歩いている、歩きながら「わたしに従いなさいと」言われた。面白いな、という風に思います。「わたしについてきなさい、あなたが行くところ、そこにわたしも一緒にいる」、イエス様はそう言ってくださいます。

VI 今日を、人生を、イエス様と歩く

ゴールデンウィークの日々です。遠くには出かけられません。しかし一人ずつで出かけて、イエス様と歩きましょう。「あなたはわたしと一緒に歩いてほしい」「一緒に歩こう」とイエス様が選んでくださいます。「あなたはわたしについてきなさい」「一緒に歩こう」。誰かへの言葉ではなく、あなたへのことばとして、今日聞いてほしいのです。大人の方達も中高生の皆も、高齢の方も一人一人、イエス様と散歩してみてください。そしてイエス様と会話してみてください。ゴールデンウィークの天気がいい、でも遊べない、集まれない、この日々をイエス様と歩きましょう。イエス様と一緒に散歩しましょう。イエス様とあなたの時を持ってください。イエス様と二人の時を持ってください。そして人生をイエス様と一緒に歩きましょう。

この一週間、この一生をイエス様と一緒に歩きましょう。「わたしと一緒に来なさい」「ついてきなさい」そうイエス様が今日も私たちを呼んでくださっています。

VIII 祈り

お祈りを捧げましょう。父なる神様、ゴールデンウィークの気持ちの良い空気と風と光の中、私たちは旅をできず、遊びに行けず、みんなに会えず、ここにそれぞれの場所におります。この新型コロナウイルスの病気が急激に広がらないように、お互いの命が守られるために人と人が触れ合うことをできるだけ減らそうとしながら生活しています。できるだけ人と触れ合いたいと願っていたはずなのに今は逆のことをしています。みんなで顔を合わせて声を合わせて一緒に賛美したいと願っているのに逆のことをしています。

私達を憐れんでください。今日日曜日休むことができますように。私達皆の生活を支え社会を支えるために、また医療の現場を支えるために日々働いている人たちがいます。今日休める人は休むことができますように。明日からまた働く人は働くことができますように。今日も仕事の場にいる人たちをあなたが守り支えていてください。私たち一人ひとりが自分にできることをしてお互いの命を支え合うことができるように助けてください。

できるだけ人に会いに行かずに一人で出かけて、イエス様、あなたと二人の時を持てますように、この特別なゴールデンウィークの一週間、お守り導き、そして祝福してください。それぞれの生活の場に、それぞれが家を出て歩く道の上に、イエス様、来て下さい。一緒に歩いていてください。一人一人がイエス様との大事な会話の時を、イエス様との大事な二人の時間を過ごすことができますように、御手におゆだねしつつ、主イエスキリストの御名によってお祈りします。アーメン。